

## 令和5年度 国語科・算数科の取組

○令和4年度の市学力学習状況調査の結果傾向 ※令和5年度市学力学習状況調査の結果が出てから更新

| 学力<br>学年 | 認知能力  |   |
|----------|---|---|
|          | 国語  | 算数  |
| 1年生      | ○文や文章を正しく書く<br>○句読点・長音・片仮名の表記<br>△伝わるように話す・話し合う<br>△文末表現や語句の使い方<br>△内容の大体を捉える・感想の共有<br>△漢字の読み<br>×重要な語や人物の行動を捉える                                    | ○長さ、かさ<br>○絵や図を用いた数量の表現<br>△時刻の読み方              |
| 2年生      | ○伝わるように話す・話し合う<br>○大事なことを聞き取る<br>○ていねいな言葉で話す<br>○重要な語や人物の行動を捉える<br>×文や文章を正しく書く  | △たし算とひき算<br>△三角形や四角形<br>△表やグラフ                  |
| 3年生      | △構成を考え話す・話し合う<br>△工夫して話す・内容を捉えて聞く<br>△指示語を理解して使う<br>△目的に応じて工夫して書く<br>△漢字の書き・ローマ字の書き<br>△主題を読み取る・考え感想の共有<br>△詳細を読み取って解釈する<br>△漢字の読み<br>×構成を考え書く・推敲する | △たし算とひき算<br>△かけ算<br>△わり算<br>△小数<br>△円<br>△時刻と時間 |

※○・・・得点率全国比95以上 △・・・得点率全国比90未満 ×・・・得点率全国比80未満

○令和5年度の県学力学習状況調査の結果傾向 ※令和5年度県学力学習状況調査の結果が出てから更新

| 学力<br>学年 | 認知能力                                      |  | 非認知能力                        | 備考   |
|----------|---|--|------------------------------|--|
|          | 国語  | 算数                                     |                              |  |
| 4年生      | △接続後、指示語<br>△文章(物語文)読解                    | △除法の文章題<br>△円などの図形                     | ○プランニング方略<br>○作業方略<br>△やりぬく力 | 基礎学力の定着が不十分なため、学年を跨いで共通の課題が多い。また、共通して文章読解に課題があることもわかる。 |
| 5年生      | △文章(物語文)読解<br>△文章構成の理解<br>△作文             | ○直線の垂直<br>○資料の分類整理<br>△小数の倍<br>△表の読み取り | ○学習意欲<br>○作業方略<br>△柔軟的方略     |  |
| 6年生      | △漢字、熟語<br>△被修飾語、類義語<br>△指示語<br>△文章(物語文)読解 | △小数、分数、約数<br>△面積、体積<br>△文章題<br>△割合     | ○作業方略<br>△認知的方略              |  |

### 国語科

#### 【国語科における児童の実態】

- ・漢字の定着率の個人差が大きい。おおよそ定着している児童も文章中での活用ができない。
- ・語彙が少なく、自分が知っている簡単な言葉で片付けてしまう。
- ・作文や感想文への苦手意識がある。

#### 【指導の重点】

- 言語活動を充実し、言語活動を通して指導事項を指導する単元計画にする。
- 学習の系統性を明らかにし、学年に応じた指導と評価の一体化を徹底する

| 具体的な取組   | 評価 |
|--|----|
| ○読書活動の一層の充実を図る。<br>・業前15分間の朝読書の実施。<br>・国語教材との関連図書を紹介、奨励する。<br>・図書相談員と連携し、低学年を中心に読み聞かせを継続して行う。              |    |
| ○スピーチの段階的な指導を行う。<br>(スピーチの内容や原稿の工夫)  |    |
| ○書くことについて段階的、継続的な指導を行う。<br>・書く意欲をもたせる題材を設定する。<br>・書き慣れるため、継続的に日記等に取り組ませる。<br>・視写をすることで原稿用紙の使い方、表記の仕方を学ばせる。 |    |
| ○漢字テストを活用する。<br>・正答率が低い児童へは、繰り返し習熟させ、漢字の確実な定着を図る。  |    |
| ○国語辞典、漢字辞典を常用する。   |    |

## 算数科

### 【算数科における児童の実態】

- ・かけ算九九が確実に習得できていない児童が見られる。
- ・計算力の個人差が大きい。
- ・全体的に図形について、苦手意識をもつ児童が多い。
- ・既習の学習内容から課題を解決しようとする意欲はある。
- ・自分の考えを友達に伝えることに苦手意識をもつ児童が多い。

### 【指導の重点】

- 児童の実態に即した指導と評価の改善・充実を図り、個別支援に力を注ぐ。
- 数学的活動の充実と、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習を展開する。

| 具体的な取組   | 評価 |
|--|----|
| ○低・中学年はT T、高学年はT Tと少人数指導を導入し、学年の実態や単元に応じて、より効果的な形態で学習に取り組む。                            |    |
| ○デジタル教科書やGIGA 端末等、I C Tを効果的・積極的に活用する。  |    |
| ○多様な考え方や表現に表れる数理的な処理のよさを味わうことができるように、主体的な問題解決学習を重視する。                                  |    |
| ○言語活動の充実を図り、考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問したりするなど対話的な学びが深められるようにする。                              |    |
| ○基礎的基本的な学習内容の定着プリントや学研ニューコース、eライブラリアドバンスを活用する。   |    |
| ○業前の計算力向上の時間「ぐんぐんタイム」を設定する。<br>・四則をはじめとした基礎的な計算技能の定着を図る。<br>・計算の速さや正確性を高め、基礎的な計算力を高める。 |    |